

2018年度 大学自己点検・評価(神学研究科)自己点検・評価総括用シート 1

＜神学研究科の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況	
目標1	神学における専門的な知識を修得し、思索を深めることのできる人材の育成	4つの研究分野において開講しているすべての「特殊講義」(前期課程)に「特殊研究」(後期課程)を合併開講することで、講義内容を高度化する。後期課程学生と受講することで、主に、専門的知識の修得を図り、思索を深めるインセンティブを与える。	A: 4分野開講 B: 3分野開講 C: 2分野開講 D: 検討	2018年度目標値	B
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	B
目標2	多様なキリスト教思想の知を身につけた人材の育成	シラバスへの明記状況	A: シラバス作成(確定) B: シラバス作成(原案確定・継続検討実施) C: シラバス記載内容検討 D: 未実施	2018年度目標値	B
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	A
目標3	修士論文を執筆できる能力の育成 [前期課程]	『修士論文優秀賞』の設置状況	A: 『修士論文優秀賞』設置 B: 『修士論文優秀賞』原案確定 C: 『修士論文優秀賞』原案検討 D: 未実施	2018年度目標値	A
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	A
目標4	博士論文を執筆できる能力の修得 [後期課程]	後期課程の学生による『研究発表会(仮称)』の開催に向けた検討状況	A: 『研究発表会』設置 B: 『研究発表会』原案確定 C: 『研究発表会』原案検討 D: 未実施	2018年度目標値	A
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	A

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

研究科の充実に向けては、それぞれの目標を着実に進めている段階である。前期課程と後期課程の合併授業を行うことによってよりよいアカデミックな刺激を互いに受けて、後期課程への進学者・進学希望者も毎年確保されている。『修士論文優秀賞』、後期課程の学生による『研究発表会』も進展しており、よりいっそうの充実が期待される。

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・学生数が確保できているのは評価できる。問題は質の確保だろう。(A)
- ・項目によっては、目標値を超える進捗を示すものがあり評価できます。目標達成後もさらに取り組みの充実を期待します。(B)
- ・研究科の充実に向けてとられたいくつかの仕掛けが功を奏していることが分かります。(C)
- ・目標達成に向けて着実に進捗していることが伺えます。(D)
- ・いずれの教育研究目標についても2018年度目標値を達成されています。引き続き、研究科内での自律的・積極的な改善活動が行われることを期待しています。(E)
- ・良好な進捗状況であり、今後の更なる充実・伸展が期待できます。(F)